

e-16) エゾシモフリスズメ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「減少傾向にあり、佐賀県でも貴重である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴²⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

成虫は 6 月～8 月に出現⁴²⁾する。本州中部以南では山地に産する⁴²⁾。幼虫はドロヤナギ、ホオノキの葉を食う⁴²⁾。

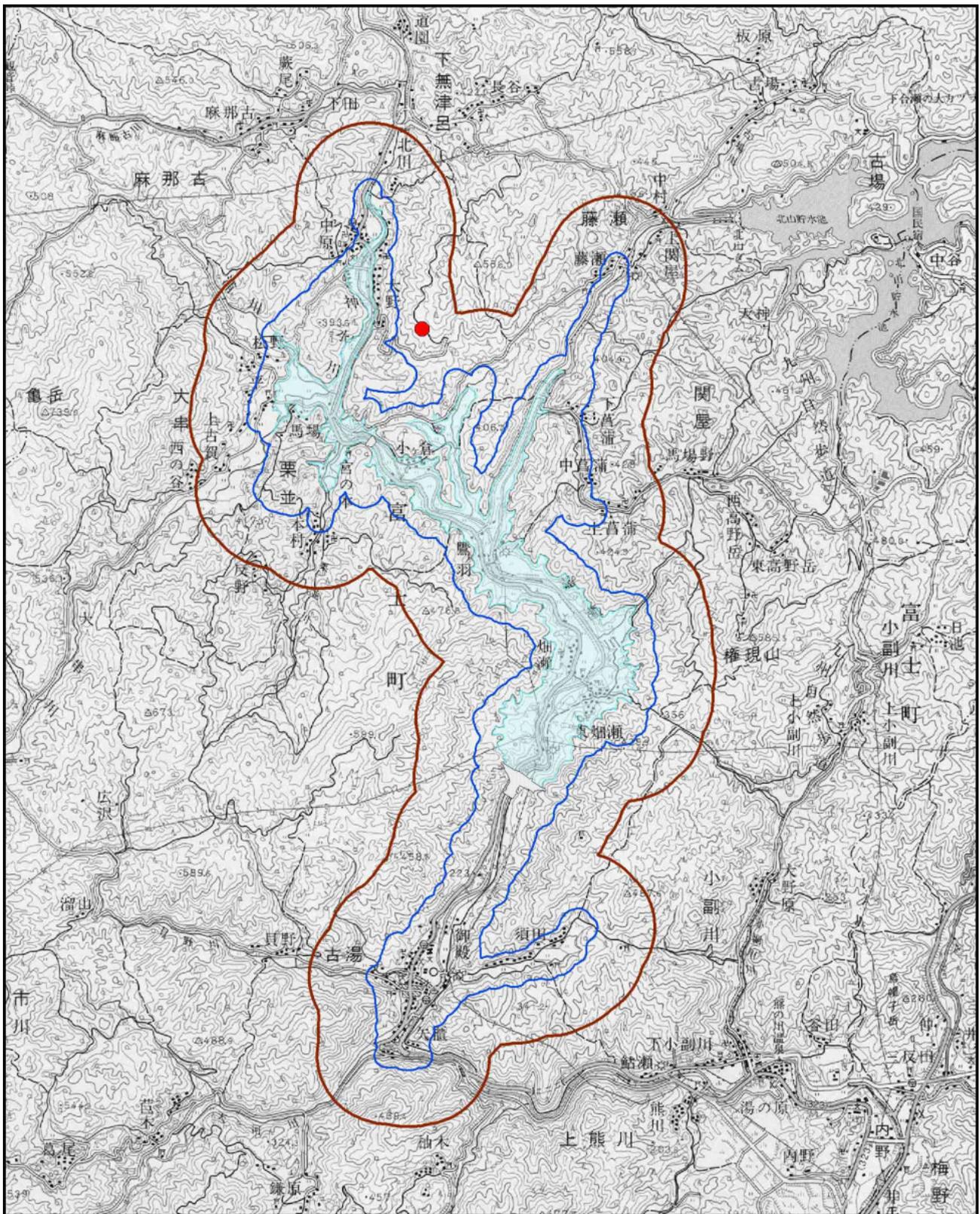
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(13)に示す。

本種は、平成 6 年度の調査において、大野地区の大野集落東の山間部 1 地点で生息が確認された。

確認された環境は、落葉広葉樹林と背の低い草原が混在する場所であるが、ライトトラップによる確認であり、周辺の生息環境から飛来した可能性がある。

生態情報から、本種は、主に常緑広葉樹林及び落葉広葉樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

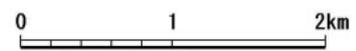


図4.1.5-7(13)
エゾシモフリスズメ確認地点

e-17) ヒゴキンウワバ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「佐賀県での記録が少なく希少性の観点から重要である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、熊本県の内陸部、阿蘇山塊、内大臣、五家荘、白髪岳等⁴⁴⁾に分布する。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

6 月～9 月に出現⁴⁴⁾し、自然林の周囲の二次林に生息する⁴⁵⁾。

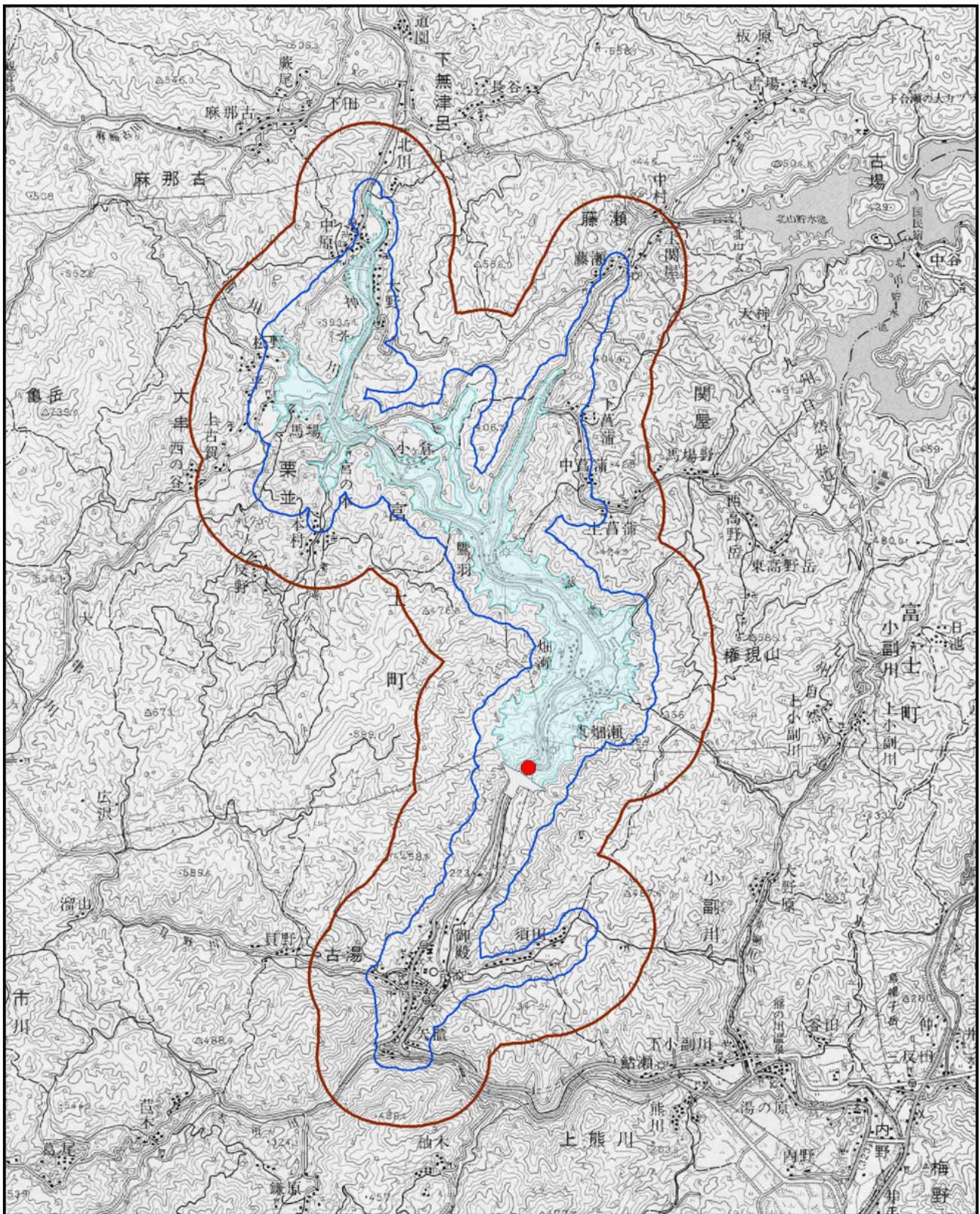
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(14)に示す。

本種は、平成 6 年度の調査において、嘉瀬川の川上川第二ダム下流 1 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、文献⁴⁶⁾において畑瀬で確認された記録がある。

確認された環境は、針葉樹林と背の低い草原が混在する場所であるが、ライトトラップによる確認であり、周辺の生息環境から飛来した可能性がある。

生態情報から、本種は、当該地域において、常緑広葉樹林及び落葉広葉樹林に生息すると考えられる。



凡 例

- : ダム堤体
- : 副ダム
- : 貯水予定区域
- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 確認地点



1:50,000

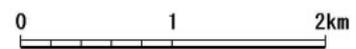


図4.1.5-7(14)
ヒゴキンウワバ確認地点

e-18) ナカオビキリガ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「個体数が多くない」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する⁴²⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

10 月～11 月、平地、低山地に出現する³⁹⁾。暖地のもので、平地及び低い山地にすむ⁴²⁾。

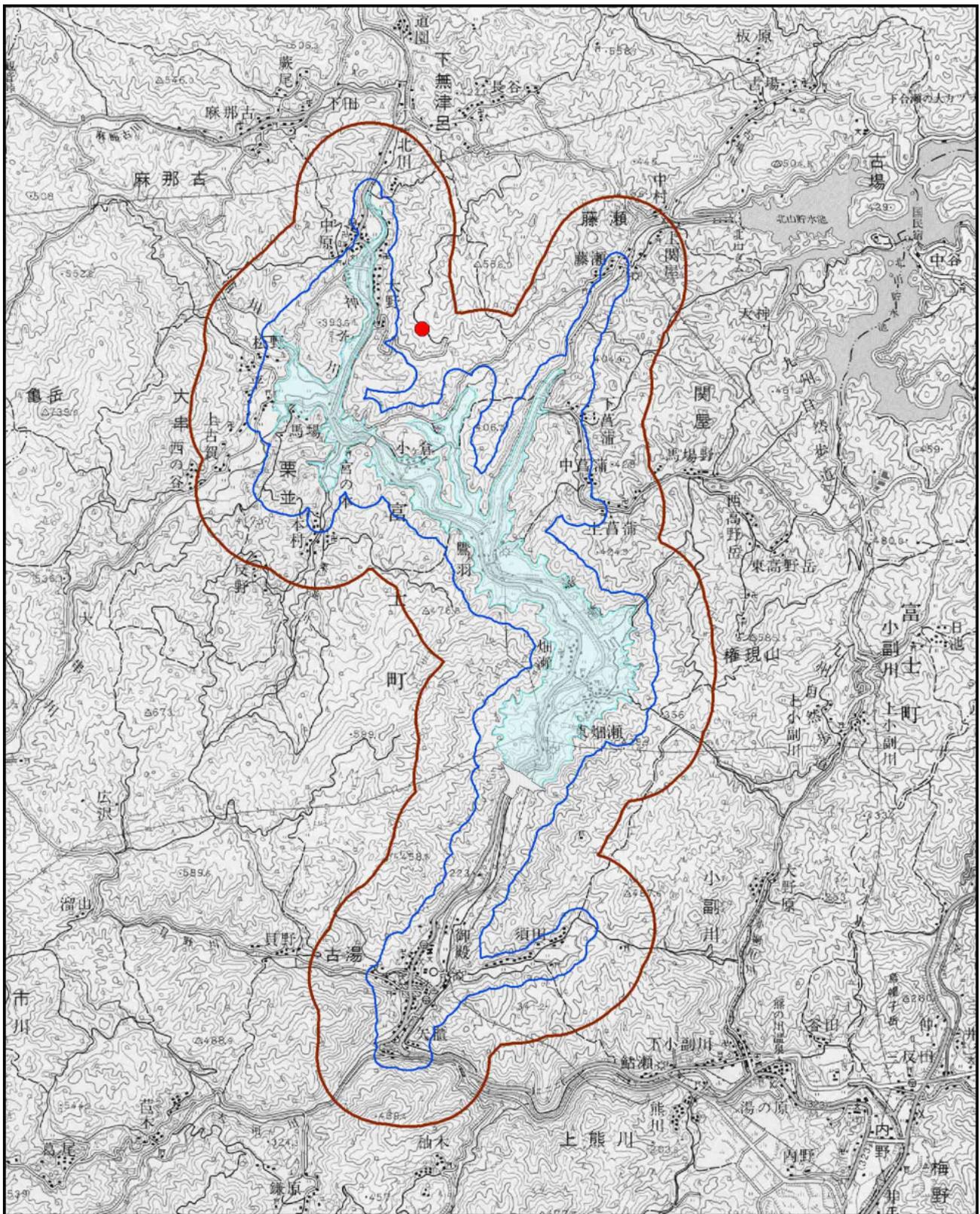
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(15)に示す。

本種は、平成 6 年度の調査において、大野地区の大野集落東の山間部 2 地点で生息が確認された。

確認された環境は、落葉広葉樹林と背の低い草原が混在する場所であるが、ライトトラップによる確認であり、周辺の生息環境から飛来した可能性がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域に希に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000



図4.1.5-7(15)
ナカオビキリガ確認地点

e-19) キアシマルガタゴミムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

水辺の石下や土中に生息している⁴⁸⁾。成虫は秋から春にかけて多く、昼間主に水辺の砂中や石等の下に隠れ、夜間に活動し、他の虫や植物の茎葉、種子や菌を食べる⁴⁹⁾。産卵は秋行われ、幼虫も秋から早春に砂中にいて草食らしい⁴⁹⁾。成虫でも幼虫でも越冬する⁴⁹⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(16)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、嘉瀬川の河原に局地的に生息すると考えられる。

